

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の特徴	利用者個別の状況に応じ、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟な支援を行っている。 自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気での支援を行っている。 利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	人	9人	1人	1人	1人	人	1人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①新規契約の申し込み、フェースシートの更新時は読んだことを確認できるよう署名行う</p> <p>②契約時・モニタリング時に大まかにでも本人、家族の希望を確認する</p> <p>③状態の変化、事故、支援内容の変更などあればグループライ</p>	<p>①・フェースシート更新時には必ず申し込みノートに記載。フェースシート更新時は必ず署名している。 ・更新の申し込みがあった時にすぐに確認することができないことがある。当日の業務に追われ確認しないままケアをすることもある。</p> <p>②・本人、家族のその場での希望は確認している。 ・契約時、モニタリング時にケアマネが詳細にカルテに記入し把握している。支援内容が分かりやすい。</p> <p>③・何かあればその都度グループラインで共有できている。 ・傷の状態、入院など変化があれば、画像で確認できるようグループラインを活用している。</p>	<p>・問題点の改善に向けた計画が練られていると思う。また改善に向けて対応している様子が伺える。</p>	<p>①新規契約の申し込み、フェースシートの更新時は申し込みで周知するので職員各位必ず確認する。読んだことを確認できるよう署名行う</p> <p>②本人、家族の希望の確認を続ける。本人の意向の確認が困難な場合は家族に意向の確認する。</p> <p>③・日々の関りの中で、過去の暮らしやエピソードを確認できるよう図る。 ・収集したエピソードはフェースシートに記入し周知する。 ・フェースシートに記入する職員は署名すること。</p>

<p>ンを活用し周知行う。</p> <p>④必要に応じ、地域の方と協力し地元での生活を支える</p> <p>⑤利用者、家族の要望に応じた柔軟な支援を今後も続けていく</p> <p>⑥・感染状況を確認しながら地域のイベントに積極的に参加していく。 ・地域の方へ避難訓練の参加の声掛けを継続する</p> <p>⑦真穴地区公民館での運営推進会議の開催を継続する</p>	<p>④・地区の方と共同で見守るなど対応できている。 ・推進会議には民生委員や地域の見守り隊など集まり情報を共有している。 ・地域の方から利用者の行動など聞くことがあり、人間関係などの情報もある程度確認できる ・地域の方が「もうすぐめぐみさんが来るよ」と利用者へ声掛けしてもらうということもある。</p> <p>⑤・小規模多機能型居宅介護の名の通り、その時の利用者の状況に合わせて柔軟に対応できている。 ・急な受診介助や臨時の利用、宿泊など要望に応じ柔軟な支援ができた。</p> <p>⑥・避難訓練時に推進会議の方を巻き込んだ避難訓練を継続し消防職員の講話も一緒に聞いている。 ・地域の薔薇園や小学校の運動会など見学に行くこともできた。 ・以前に増して利用者の近所の方が面会に訪れている。</p> <p>⑦・会議終了後、管理者がすぐに文書作成し共有。運営に反映している。議事録で確認し、職員会で再確認している。意見や苦情など細かく記載されており分かりやすい。</p>		<p>④ ・必要な場合は地域の方と協力し本人の地域での生活を支える</p> <p>⑤小規模多機能型居宅介護の強みである柔軟な対応を体现できているのでこのまま継続していく。</p> <p>⑥・地域のイベントは可能な限り参加する。 ・運営推進委員へ避難訓練の参加の声掛けを継続する</p> <p>⑦真穴地区公民館での運営推進会議の開催を継続する (R8年1月会議内でめぐみでの開催の提案あり)</p> <p>⑧・研修アプリでの研修は継続</p>
---	---	--	--

	<p>⑧職場内研修を開催する ・研修アプリを活用する</p> <p>⑨ 朝、夕の申し送りは利用者から離れた和室で行う</p>	<p>⑧・各自が研修アプリでそれぞれに講義を受け、質の向上に努めている。 ・毎月研修を行い、アプリであるために終了後再確認もでき質の向上を図れている。</p> <p>⑨・確実に実施している。 ・朝の申し送りは毎日和室で行い、情報が聞こえないようにした。ただ夕の申し送りは手薄になるため離れた場所では困難。その為夕は利用者へ情報が漏れないよう配慮しながら行っている。</p>		<p>する。</p> <p>⑨・虐待、身体拘束についての研修を重ね理解を深める。</p>
B. 事業所の しつら え・環境	<p>・玄関に人が来た時は、玄関を開け挨拶を行う。</p>	<p>・以前来訪時の挨拶について指摘があった為対応を続けている。 ・令和7年9月推進会議にて「改善されている」「地区内を歩いていても挨拶がみられる」と意見あり。改善されたと評価。</p>	<p>・以前は2ヵ月に1回の運営推進会議をめぐみの建物の中でやっていたので中の様子を伺うことができていた。しかし公民館での開催となりめぐみの中に入ることがなくなったので、居心地がいい空間になっているか把握しにくくなっている。実際、中をみることはできないだろうか。</p>	<p>・推進会議をめぐみで開催し事業所の中を直に見ることが出来る体制に戻す。</p>
C. 事業所 と地域の かわり	<p>・地域の方と必要時に相談できる関係を維持していく。</p>	<p>・地域のイベントには積極的に今後も参加していく。 ・推進会議の場で気になる方について話し合う機会を持つ</p>		<p>・地域の中で気になる事例がある時は会議内で意見交換行う</p>
D. 地域に 出向いて 本人の 暮らしを	<p>・春～秋にかけ気候のいい時には積極的に外出レクを実施する。 ・地域行事への参加は</p>	<p>・昨年、地区の盆踊りの七夕飾り作りを地区より依頼され取り組んだ。盆踊り自体に事業所として参加することはできなかったが、工作という形で祭りに参加することも地域貢献と捉えている。今後も続けていきたい。</p>		<p>・外出レクを積極的に実施 ・地区行事で使う飾り作りなど協力する。</p>

支える 取組み	感染症の状況を考慮し実施する。			
E. 運営推進会議を活かした取組み	・公民館での開催を継続する。	感染症対策として公民館で会議を行うようになった。そろそろ元のスタイルに戻してもよいかもしれない。事業所で相談してみる。できれば、めぐみで行うスタイルを軸とし、感染症流行期などは公民館で開催させていただくという形を取れるように図りたい。	以前は2カ月に1回の運営推進会議をめぐみの建物の中でやっていたので、2カ月に1回とはいえ中の様子を伺うことができていた。しかし公民館での開催となりめぐみの中に入ることがなくなったので、居心地がいい空間になっているか把握しにくくなっている。実際、中をみることはできないだろうか。	・推進会議の会場をめぐみに戻す。 ・感染症流行期は公民館を活用し対面での会議を継続する。
F. 事業所の 防災・ 災害対策	・運営推進委員への避難訓練の案内を継続する。 ・避難訓練の際、ブレーカーの確認を行う。 ・通報機器等取扱訓練は継続していく。	通報機器取扱訓練は偶数月に実施。2月の訓練をもって新入職員含め全員が1度は訓練に参加。 ・多くの職員がブレーカーに手が届かないことが判明。緊急停止装置を設置。 ・夜間避難を想定しヘッドライトを購入	・裏の窓から逃げると言っていたが、安全に避難できるようにスロープなどがあればと思う。 ・介護用のスロープだけで探すのではなく、荷物用や農業用のスロープでいいのがあるかもしれない。	・夜間想定避難訓練を行い、事業所の避難行動を整えていく。 ・通報機器等取扱訓練は継続する。